

投資・財政計画

「くらしき水道ビジョン -2019-」で掲げた施策を着実に進めていくため、向こう50年間の更新需要と財政収支の将来見通しを試算し、その結果を基に、今後10年間の投資・財政計画を策定しました。

投資計画

建設・改良事業の方針を次のとおり設定しました。

- 限られた財源をより有効に活用できるよう、基幹管路の更新や浄水場の耐震化等、重要度の高い施設の更新・耐震化を優先的に進めます。
- 仕様の合理化やダウンサイジング等によって、コスト削減を図ります。

今後10年間の投資額としては、総額494億円が見込まれます。

財政計画

将来にわたり健全経営を継続していくことを前提に、財政計画の策定にあたり次の目標を設定しました。

- 資金残高（現金・預金）は、大規模災害等への備えとして30億円程度の確保を目標とし、20億円を下回らないものとします。
- 企業債の残高は180～200億円程度（直近実績の約1～2割増）を上限とし、今後10年間に減少に転じるよう計画します。

以上の目標を両立するには、現在の水道料金では約50～60億円の資金が不足する見通しです。そこで経営効率化・健全化に係る取組を徹底したうえで、適正な料金水準を検討するものとして、右図のとおり収支計画を設定しました。

フォローアップ

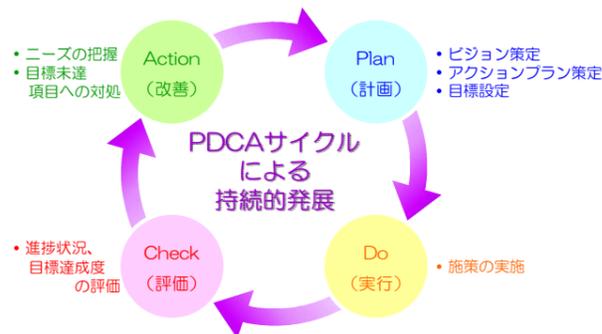
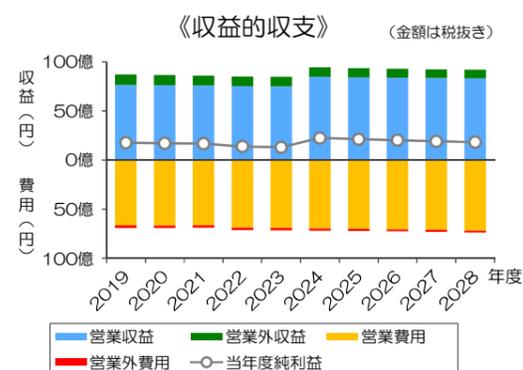
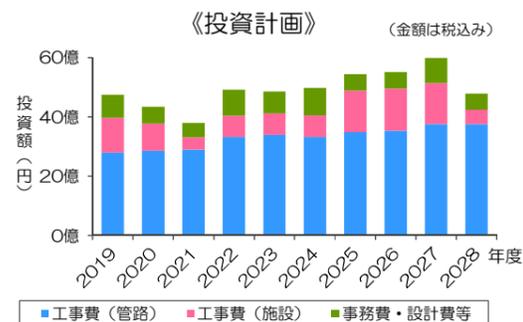
施策を着実に推進するため、PDCAサイクルを活用した進捗管理に継続的に取り組みます。

具体的には、取組ごとに設定した指標を用いて施策の進捗状況を毎年点検し、その結果は広報くらっぴい等を通じて公表します。また、社会情勢が大きく変化することも考えられるため、おおむね3年ごとに、進捗状況や事業効果も踏まえて計画や目標を検証・評価し、必要に応じて見直し・改善を図っていきます。

倉敷市水道局

〒710-8565 倉敷市西中新田 640 番地

TEL 086-426-3655 <http://www.city.kurashiki.okayama.jp/>



くらしき水道ビジョン -2019- (概要版)

策定趣旨

近年、水道事業を取り巻く環境は大きく変化していますが、今後も経営環境の変化に的確に対応し、計画的に事業経営に取り組んでいく必要があります。そこで、2018年度（平成30年度）で計画期間が終了する「倉敷市水道ビジョン」の次期ビジョンとして、厚生労働省の「新水道ビジョン」や総務省が求める「経営戦略」も踏まえて、今後10年間の具体的施策と目標を示す「くらしき水道ビジョン -2019-」を新たに策定しました。

位置付け・計画期間

「くらしき水道ビジョン -2019-」は、本市の最上位計画である「倉敷市総合計画」の分野別計画にあたり、本市水道事業における最上位の計画となります。

また、50年後の本市水道事業を見据えて、当面取り組むべき施策を示すこととし、計画期間は10年間（2019～2028年度）としました。



将来像・取組姿勢

本市は、高梁川の水に大きく依存した水島コンビナートや美観地区など、豊富な水資源と伝統文化を礎として発展し、本市の水道は通水から100年余り、ライフラインとして人びとの暮らしを支え、産業の発展に貢献してきました。これからの将来も、このまちには倉敷らしさがあると人びとから思われ、そのことが人びとを倉敷のまちに惹きつけることになるよう、また、それを実現するためには倉敷の水道の健全な発展が不可欠であるという自覚を込めて、次のとおり将来像を掲げます。

倉敷の水道が このまちの未来を創る

この将来像の実現のために守るべきこと・挑戦すべきことを見極めつつ、我々水道事業者は次の姿勢で倉敷のまちの新たな水道システムづくりに取り組みます。

● 4つの取組姿勢 ●

- 取組姿勢 A** 水道プロフェッショナルとして最高品質のおいしい水道水にこだわります
- 取組姿勢 B** 多発する自然災害に対し水道システムの被害を最小限に食い止めます
- 取組姿勢 C** 水循環の中の一員として自然環境に配慮した事業運営をします
- 取組姿勢 D** 水道利用者を選んでいただける水道界の優良企業を目指します



将来像を実現するための施策と具体的取組

将来像を実現するための今後10年間の施策として、4つの取組姿勢ごとに基本施策（計11項目）を設定しました。また、各施策について具体的取組（計33項目）と目標（計50項目）を設定しました。

取組姿勢A 水道プロフェッショナルとして最高品質のおいしい水道水にこだわります

本市では、これまでもおいしい水道水を目指して努力してきました。おいしい水道水の例として科学雑誌に取り上げられたこともあります。この伝統を引き継ぎ、今後も厳格な検査を実施し、コストにも配慮しつつ状況によって高度な浄水方法を検討し、最高品質のおいしい水道水を作ります。

基本施策 A-1 水質管理体制の強化

- 水安全計画の運用改善
- 水質検査体制の充実
- 定期的な配水池清掃の実施
- 小規模貯水槽水道維持管理の促進

（主な管理指標）

指標	現状値	目標値
配水池清掃実施率（%）	31.1	60
最大カビ臭物質濃度水質基準比率（%）	20.0	10
残留塩素濃度のばらつき（標準偏差）（mg/L）	0.076	0.060



水質検査の様子

基本施策 A-2 水道水質のさらなる向上

- 浄水処理方法の強化
- 残留塩素濃度の適正管理

取組姿勢B 多発する自然災害に対し水道システムの被害を最小限に食い止めます

過去には、渇水や豪雨によって断水のやむなきに至ったこともあります。近い将来には巨大地震の発生も予測されています。しかし、災害の有無に関係なく、水道水は人びとの生活に一日たりとも欠かせません。懸念される災害に備え、老朽化した水道施設の更新を計画的に進めるとともに、水道関係団体に限らず、河川・道路・防災関係団体等とも情報を共有し、万一被災しても早期に復旧が可能となるよう対策を講じます。

基本施策 B-1 水道施設の計画的更新と耐震化

- 水道施設更新・耐震化計画の策定
- 構造物・設備の計画的更新と耐震化
- 管路の計画的更新と耐震化

（主な管理指標）

指標	現状値	目標値
浄水施設の耐震化率（%）	27.2	100
基幹管路の耐震適合率（%）	38.2	55
有収率（%）	93.5	96
浸水対策浄水施設数（か所）	1	2
災害対策訓練実施回数（回/年）	2	4

基本施策 B-2 水道施設の適切な維持管理

- 構造物・設備の維持管理
- 管路の維持管理

基本施策 B-3 災害対策の充実

- 被害を最小化する水道システムの構築
- 災害時の対応力強化
- 災害対応に係る広域連携の推進
- 災害対応に係る啓発活動



管路の更新工事



給水パックを使った訓練

取組姿勢C 水循環の中の一員として自然環境に配慮した事業運営をします

我々水道事業者は、大気から川、川から海へ、そして海から再び大気へとめぐる水循環の中で水道水を作っています。今後、地球温暖化や異常気象などの自然環境の変化による水道水質の悪化が懸念されていますが、地域に生きる一員として、環境に配慮し、健全な水循環の維持を念頭においた事業運営をします。

基本施策 C-1 健全な水循環の維持

- 水循環に関する啓発活動の推進
- 水源水質の維持保全

（主な管理指標）

指標	現状値	目標値
配水量1m ³ 当たり二酸化炭素排出量（g・CO ₂ /m ³ ）	283	200
建設副産物のリサイクル率（%）	99.5	100



高梁川源流付近

基本施策 C-2 環境対策の実施

- 環境負荷の低減
- 資源リサイクルの推進

取組姿勢D 水道利用者を選んでいただける水道界の優良企業を目指します

水道利用者に喜ばれる水道、おいしい水道水を安価で安定して送るためには、水道利用者の声を大切にするとともに、お互いのコミュニケーションの拡大・充実を図ることが重要です。また、今後の人口減少社会において、経営環境は厳しくなることが予想されますが、IoT技術を駆使するなど効率的な経営を図るとともに、倉敷に水道水を供給している3つの企業団、高梁川流域の水道事業者、民間事業者などとも連携を一層強化して水道界の優良企業を目指します。

基本施策 D-1 お客さまサービスの向上

- 積極的な情報提供
- お客さまニーズの把握
- 広報活動の点検・改善
- お客さまサービスの改善・向上

（主な管理指標）

指標	現状値	目標値
広報紙による情報の提供度（部/世帯）	4.4	6
水道局に対する苦情対応件数（水質に関するものを除く）（件）	16	0
資金残高（億円）	36	30 （少なくとも20）
企業債残高（億円）	164	197未満
業務改善案提出件数（件）	6	40
水道技術に関する資格取得度（件/人）	2.12	3
ステップアップ研修の実施（回/年）	—	3

基本施策 D-2 財政基盤の強化

- 自己資金の確保
- 料金水準の継続的な検討
- 企業債の計画的な活用
- 水道水の利用促進

基本施策 D-3 事業・業務の効率化

- 水道施設の最適化
- 事業の進捗管理と計画の定期的見直し
- 業務執行体制の確保と新たな連携の検討
- 業務改善の推進



窓口業務

基本施策 D-4 人材育成と技術の向上

- 専門職員や資格保有者の確保
- 技術力の向上



倉敷市水道技術研修施設での研修風景